



水稲用除草剤

## ヒエクッパエース1キロ粒剤



除草剤分類

2

農林水産省登録

第23616号

有効成分

フルセトスルフロン . . . . . 0.33%

性状

類白色細粒

人畜毒性

普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）

有効年限

5年

包装

1kg × 12袋

## 特長

✓ 高葉齢ノビエにすぐれた効果  
ノビエに対し、10アール当り1kg処理で5葉期まで高い除草効果を示します。

✓ ゆとりのある散布適期  
本剤は雑草の発生に合わせて、移植後14日からノビエの5葉期までの幅広い時期に使用でき、圃場に応じた体系防除を可能にします。

✓ ノビエ以外の雑草にも有効  
フルセトスルフロンの作用により、わずか1成分でノビエをはじめ、ウリカワやヒルムシロなどの多年生雑草にも高い除草効果を示します（ただし、SU抵抗性雑草に対しては効果が期待できません）

✓ 環境への負荷が小さい  
本剤は水生生物に対し、高い安全性が確認されています。また製品1kg中に含まれる有効成分量はわずか3.3gと非常に低薬量で、減農薬栽培に適した除草剤です。

適用作物と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法	フルセトスルフロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	ノビエ マツバイ ウリカワ ヒルムシロ ヘラオモダカ クログワイ コウキヤガラ シズイ	移植後14日～ ノビエ5葉期 但し、収穫45日前 まで	1kg	2回以内	湛水散布又は無人ヘ リコプターによる散 布	2回以内
直播水稻	ノビエ ウリカワ	稲2葉期～ノビエ5 葉期 但し、収穫45日前 まで				

※本内容は2018年1月26日付の登録内容に基づいています。

## 効果・薬害等の注意事項

- 使用量に合わせて秤量し、使い切ること。
- 本剤を移植水稻に使用する場合は前処理剤との体系、直播水稻に使用する場合は前処理剤または後処理剤との体系で使用する。
- 本剤を移植水稻に使用する場合、使用時期はノビエの5葉期までなので、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、必ず適期に散布するように注意すること。  
各雑草の散布適期は次の通り。  
ウリカワ、ヘラオモダカ・・・・・・・・・・4葉期まで  
クログワイ、コウキヤガラ、シズイ・・・・草丈15cmまで  
ヒルムシロ・・・・・・・・・・発生期まで
- クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生期間が長く生育段階によって効果にフレが出るので必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用する。
- 本剤を直播水稻に使用する場合、使用時期はノビエの5葉期までなので、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、必ず適期に散布するように注意すること。  
ウリカワ・・・・・・・・・・4葉期まで
- 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- 散布に当たっては、水の出入りを止め、湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（3～5cm）を保ち、田面を露出させないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - ・ 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm／日以上）
  - ・ 軟弱な苗を移植した水田
  - ・ 極端な浅植えの水田及び浮き苗の多い水田
- 稲の根が露出する条件では薬害が生じるおそれがあるので使用しないこと。
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので、使用をさけること。
- 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - ・ 散布は散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
  - ・ 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
  - ・ 粒剤散布装置については、事前に薬剤の物理性に合せてメタリング開度を調整すること。
  - ・ 当該水田周辺部への飛散防止のため、散布装置のインペラ（スピナ）の回転数を低速に調整すること。
  - ・ 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、圃場の端から5m以上離れた位置から圃場内に散布すること。
  - ・ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。
- 本剤を散布した水田の田面水を他の作物に灌水しないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

# 安全使用上の注意事項

● 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。

## 魚毒性等

この登録に係る使用方法では該当がない。

## 保管

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。